金曜日の会　報告

１　期　日　9 月 18 日
２　場　所　倉敷労働会館
３　参加者　AS，O，TA，AR，YO
４　内　容
『海のいのち』映像（YO）
『マット運動』映像（AS）
『注文の多い料理店』解釈（AR）
『一つの花』解釈（AS）
〇海のいのちの映像の中で、子どもたちは活発に発言しているように見えるが、同じようなことを言っていて、授業が展開していかない。以前にも指摘を受けた点です。文についた明確な対立を組んでいく必要があります。また、学んだ解釈を自分の中で咀嚼・整理しなければ、授業では使えません。太一の『こう言ってはばからなかった』に対するまわりの反応は、賛成だったのか反対だったのかという対立も、教師が出すのではなく子どもにたどり着かせたいものです。
〇『注文の多い料理店』では、『泣き』の解釈が話題になりました。①二人は泣き出しました。→②声もなく(声を出さない？出せない？)泣きました。→③泣いて泣いて泣いて泣いて泣きました。①と③は、声を出しているのかいないのか？この対立には、思わず引き込まれました。そして、②の後の『フッフッと笑って、』③の後の『そのとき、』には、二人の状況を冷静に観察しながら、追い込んだり懲らしめを終えたりする山(自然)のほくそ笑む様子が伺われます。一つ一つが、驚きの解釈でした。
〇『一つの花』では、お父さんの『さがし始め』を考えました。『あやす』と『一生けんめいあやす』の違いに着目 すると、後者では一生懸命あやせばあやすほど大泣きするゆみ子の姿が伺われます。また、この時のお母さんの様子も合わせて、お父さんの判断があったのだと思います。ポイントは、『うちに』です。
〇大きな前回りの映像からは、先生と子どもたちの技に対する意識の高まりが感じられました。体の各部位への意識が見られ、粘りも出てきました。また、映像の撮り方も良くなっていました。(YO)